

教育課程・学習成果の検証

1. 研究科・専攻の教育課程について、院生の履修状況に対して開講科目数は適切か、非常勤講師比率は適切か、院生にとって体系的な科目編成となっているか等を検証

【検証結果（全体概要）】

教育課程編成・実施の方針のもと、修士課程での学修を基礎として、高度な専門性を身につけることのできる教育課程を体系的に編成している。このような観点から開講科目、非常勤講師比率は適切であり、院生にとって体系的な科目編成になっている。

【成果および向上施策】 ※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

【課題および改善施策】 ※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

2. 「大学院生アンケート」等の資料を参考に、研究科・専攻の教育について、効果が挙げられている点、改善すべき点を検証

【検証結果（全体概要）】

履修指導の評価と授業に対する教員の熱意は非常に高く、教員の指導は学生から評価を得ている。改善すべき点として、図書館での使い勝手の悪さ、就職支援体制の充実、大学全体のイベントなどへの補助の適用、メールアドレスの管理の問題、履修登録などの改善が望まれる。

【成果および向上施策】 ※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

【課題および改善施策】 ※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

3. 研究科・専攻として、教育の質向上・改善に向けた組織的な取り組み（FD）をおこなっているか。おこなっている場合、それはどのような内容か、どのような課題認識に基づくものか。

【検証結果（全体概要）】

博士論文の中間発表会、最終発表会を実施し、教員の参加状況は高い。教育活動（授業の分かりやすさ、履修指導等）に対する学生の満足度については、「授業アンケート」が、家政学研究科委員会で報告され、評価、問題点の確認を行なっている。

【成果および向上施策】 ※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

【課題および改善施策】 ※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

4. 教員組織の編成（採用・昇任等）にあたって、職位構成および年齢構成のバランスに配慮した編成をおこなっているか。また、カリキュラムに基づく教員組織となっているか。

【検証結果（全体概要）】

教員組織の編成においては、学部所属を前提に募集している。学部配属が決定した後、一定期間を経て授業や学習指導経験を踏まえ、大学院での授業担当者としての審査を行うことにより、大学院の指導担当者としてカリキュラムを考慮した、よりふさわしい専門家として授業担当者となるようにしている。

教員組織のバランスについて、大学院博士課程の為 60～70 歳代が大半であり、教授の比率が 100%である。やや偏りがあるため、50 歳代の教授の採用を目指しているが時間がかかりそうである。

【成果および向上施策】 ※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

【課題および改善施策】 ※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし